

支援情報等のお知らせ

- 1) 子ども・若者支援協議会からのお知らせ
  - ① 中学卒業後や高校中退後の進路に迷っている本人や保護者の方へ
- 2) 自立支援に関するイベント等の情報
  - ① 「生きる道一つじゃない」不登校支援NPO佐藤理事長に聞く
  - ② 「学校が全てじゃない」フリースクール安楽岡代表
  - ③ 「青少年の居場所づくり」全国フォーラム2019
- 3) 民間活動団体等の紹介
  - ① 無料学習塾「ひろせ川教室」(前橋)

1 中学卒業後や高校中退後の進路に迷っている本人や保護者の方へ

県子ども・若者支援協議会では「進む道がわからなくて、迷っている方」を対象(中卒進路未決定者、高校中退者)に、自分に進む道を自分で決められるように寄り添い支援を行っています。

支援を必要としている方にお知らせする広報チラシをネット上からダウンロードできるのでご利用ください。

[https://smilelife.pref.gunma.jp/pc/pdf/pdf\\_leaflet2.pdf](https://smilelife.pref.gunma.jp/pc/pdf/pdf_leaflet2.pdf)

なお、同チラシは、群馬県小児科医会のご協力をいただいて、先月県内の小児科医院・診療所・病院等に送付させていただきました。

現在、不登校・ひきこもり支援ガイドを改訂中です(4月配付予定)既存の支援ガイドはこちらからご覧になれます。

<https://smilelife.pref.gunma.jp/pc/youthdevelopment/shien/>

2 「生きる道一つじゃない」不登校支援NPO佐藤理事長に聞く

学校以外の学びの場の重要性を明記した教育機会確保法の施行からもうすぐ2年、県内で不登校の子どもが増える中、フリースクールなどの民間の役割が注目されている。

不登校や引きこもりの若者のためのフリースペース「アリスの広場」を運営するNPO法人ぐんま若者応援ネットの佐藤真人理事長に不登校の現状を聞いた。

(上毛新聞2019年1月21日「教育ナウ」より)

同新聞編集局に二次利用許諾をいただいたので記事を添付します。

なお、「アリスの広場」のHPはこちらをご覧ください。

<https://www.npo-alice.org/>

3 「学校が全てじゃない」フリースクール安楽岡代表

子どもが学校に行かない場合、教育機会確保法にもあるように「休養の必要性」がある子もいれば、学校を選択しないが居場所や学び場を求める子どももいる。

フリースクール「まなびバ! シリウス」(館林市仲町)を立ち上げたのは、安心できる場、自分の学びを追求する場を一つでも多く作りたかったからだ。

(上毛新聞2019年1月24日「みんなの広場:視点」より)

同新聞編集局に二次利用許諾をいただいたので記事を添付します。

なお、「まなびバ! シリウス」のHPはこちらをご覧ください。  
<https://ggmonmonya.wixsite.com/sirius>

\*教育機会確保法については、NHK解説アーカイブスをご覧ください。  
<http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/700/263477.html>

4 3/16「青少年の居場所づくり」全国フォーラム2019

全国の都市から青少年活動に参加する仲間たち、青少年を担当する職員、青少年施設の職員、NPOで活動する方々、学生、研究者など青少年の自立支援、居場所づくりを実践している人や興味を持っている人が集い、学び、楽しく交流します。どなたでも参加できます。

【フォーラム】

日時 3月16日(土) 13:00~18:30

『生きるって悪くない ~関係性の貧困を考える~』

基調講演

講師 萩原 健次郎氏(駒澤大学総合教育研究部教授)

分科会(選択制)

第1分科会『何が貧困か?』

第2分科会『生きづらさからのリスタート』

第3分科会『若者支援のネットワークづくり』

第4分科会『多世代交流と子どもの育ち』

会場 横浜市青少年育成センター

申込み・問合せ先

「青少年の居場所づくり」全国フォーラム2019実行委員会  
[youth.ibasyo@gmail.com](mailto:youth.ibasyo@gmail.com)

詳細はこちらをご覧ください。

<http://nittosei.com/archives/856>

5 民間活動団体等の紹介 無料学習塾「ひろせ川教室」(前橋)

群馬中央医療生活協同組合では、2016年2月から近隣地域で暮らす小学生を対象に無料学習支援「ひろせ川教室」を開設、ひとり親世帯や困り事がある家庭の子どもたちに無料で学習支援を行っています。

宿題やプリントを用いての学習指導を通して勉強のつまずきを解消し、学習内容の定着を目指しています。

子どもたちが気軽に立ち寄り、わからないことを安心して質問できるようにしています。又、大人も子どもも『一人の人として大切にしよう体験を増やす』としても位置づけています。

代表を小児科医師が務め、元教員などを中心としたボランティアの学習サポーターが宿題や自由勉強を応援しています。これまでに34名ほどの児童を受け入れ、子どもたちにも喜ばれています。

どの地域で生活していても、このような機会があるように関係団体との話し合いには積極的に参加しています。

活動の詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.kyouritsu.org/hirosegawa.htm>



次号は、2019年3月中旬を予定しています。  
本メルマガを、皆様の周りの方にも周知いただければ幸いです。  
また、子ども・若者支援に関する情報等の提供もお待ちしています。

メルマガを新規で受信希望する方は、「所属・氏名・メールアドレス」を『[kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp](mailto:kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp)』までお送り下さい。

群馬県子ども・若者支援協議会

- ▼ 事務局 群馬県前橋市大手町1-1-1 子育て・青少年課内
- ▼ TEL 027-226-2393
- ▼ FAX 027-226-2100
- ▼ e-mail [kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp](mailto:kowaka-shien@pref.gunma.lg.jp)
- ▼ HP <http://smilelife.pref.gunma.jp>

# 教育 ナウ

## 不登校支援NPO 佐藤理事長に聞く

# 生きる道一つじゃない

学校以外の学びの場の重要性も明記した教育機会確保法の施行からもうすぐ2年。県内で不登校の子どもが増える中、フリースクールなど民間の役割が注目されている。不登校や引きこもりの若者のためのフリースペース「アリスの広場」(前橋市南町)を運営するNPO法人ぐんま若者応援ネットワークの佐藤真人理事長(37)に不登校支援の現状を聞いた。

「フリースペースでの活動は、

小中学生から30歳までの若者が好きなきこもりに訪れ、自由に過ごしている。アーティストを講師に招いた「美術部」の活動や、簡単なアルバイトなどの就労体験も行っている。

の変化に対応できず、学校に行けなくなつた。それから6年間、不登校・引きこもり。まずは外に出る練習を

始め、中学卒業後からフリースペースに通い始めた。高卒認定試験と大検を受け、就職もすることができた。

## 居場所の発信必要

「行政などとも連携している。

県が作成する親や教職員向けの不登校・引きこもり支援の冊子にも、民間のフリースクールやフリースペースの情報が載るようになってきた。前橋では今月、中学生の娘の不登校に悩んでいた母親が殺人未遂容疑で逮捕されたが、学校外にも子どもを受け入れる場所があることを知らせる必要性を感じた。

「県内では不登校の子どもが増えている。自分が不登校だった頃と違い、社会が徐々に不登校を理解し、認めるようになってきたと感じる。親も、何が何で

「不登校に悩む人へのメッセージを。生きる道は一つではないと言いたい。学校というレールから外れたら終わりと思ってい

る人がいるが、不登校や引きこもりは人生の寄り道のようなもの。長い目で見て、最終的に自立できればいい。フリースペースなどいろいろな道があることを子どもに情報提供することも必要。そのときは興味を示さなくても、頭の片隅に残っていて、いつか情報が役立つこともある。子どもの目が外に向く瞬間を見逃さないようにしたい。

県内の市町村教委は登校が難しい児童生徒を学校外で受け入れる「適応指導教室」を設置している。集団生活への適応指導や学習指導、生活習慣改善のための相談などを行い、学校復帰や自立を支援している。

## 復帰、自立へ適応教室 市町村教委が設置

県教委によると、教室は県内22市町村に計37カ所あり、2017年度に通っていた子どもは前年度比44人増の361人だった。不登校の児童生徒の増加に伴い、利用者も増加傾向にあるという。



「不登校や引きこもりになっても人生終わりではない」と話す佐藤理事長

「自身も不登校の経験がある。中学1年のとき環境

# みんなのひろば

## 視点

まなびバ！シリウスにとって、キーパーソンが2人いる。1人目は、初任校で出会った不登校の生徒である。家庭訪問するとにこやかに話してくれるNさん。学級経営を工夫したり手紙のやりとりをしたりしている、Nさんの足が少しずつ学校に向くようになった。

しかし、私の異動後、全く登校してないと聞き、彼女のことを気にかかったまま、長年、自問自答をしてきた。

私がやったことはただの教師本位だったのではないかと、全ての子どもにとって学校に戻ることが本当に大切なのか。そんな思いを抱えながら、教員を続ける中、2人目の鍵となる人物と出会った。

ともにシリウスを立ち上げた夫は、中3から6年間、不登校と引きこもりを経験した。ある日、閲覧板で「自衛官募集」を見るや応募を決めたという。「自分を变えたい」と湧き出る思いで航空自衛隊に入隊したそうだ。

彼から学ぶことは多く、人は必要なタイミングで学び育つこと、自分らしく生きていくことが大切なことを存在そのもので示してくれた。そして「選べるのが一番の幸せ」という彼の言葉に深く考えさせられた。

館林に住むことを決めた

時、行政運営の教育支援センター(適応指導教室)はあるが、不登校の1割の子どもたちしか通っていないことや近隣にフリースクールがないことを知った。子どもが学校に行かない場



フリースクール「まなびバ！シリウス」代表

やすら おか ゆう こ  
安楽岡 優子 館林市仲町

## 学校が全てじゃない

合、教育機会確保法にもあるように「休養の必要性」がある子もいれば、学校を選択しないが居場所や学び場を求めている子どももいる。

自分は〇〇を学びたい、ここで学びたいと、学び場や居場所を選択する、そんなポジティブエネルギーで一つ一つ選び続けていけば、子どもたちほどなんにいきいき生きていくことだろう。

しかし、現状、選択肢は少なく、フリースクール等の社会的認知も低い。その子にあった生き方や学び方にスムーズに移行できるように、選択肢や制度を整えるのがわれわれ大人の責務ではないか。

昨年、Nさんと電話で15年ぶりの再会をした。聞き覚えのある声に涙があふれた。高校に進学したこと、高校でたくましくけんかもしたこと、今はネイリストで独立していること、結婚して幸せに暮らしていること等、たくさん語ってくれた。私はずっと胸にしまっていた思いを告げ、わびた。すると、彼女はこう答えた。「何言ってるんですか、先生！ 私は感謝してるんですよ」。そして、こうも伝えてくれた。「でも、今も、学校だけが全てじゃないって思っています」

シリウスを立ち上げたのは、安心できる場、自分の学びを追求する場を一つでも多く作りたかったからだ。Nさんや夫の言う「選択肢」を大切にすることを指したい。

【略歴】小中学校の教員

を11年間務め、アフリカ・タンザニアでのボランティアや東北で復興支援教員を経験。2018年4月にシリウスを立ち上げた。熊本市出身。

### 学びの選択肢